

## 【短報】 東北地方におけるイノウエホソカタムシの記録

イノウエホソカタムシ *Antibothrus morimotoi* Sasaji, 1997 は福井県南条町上牧谷と三重県平倉で採集された3個体の標本にもとづき記載された体長2.5 mm程の小型の甲虫である。本種の捕獲記録は少なく、しかも、その後の追加記録は奈良県や京都府、兵庫県など原産地の近隣府県に限られていた(青木, 2009)。しかし、最近、これらの既産地から南に遠く離れた屋久島からの記録が公表された(青木, 2012)が、筆者は、これとは逆に北遠の岩手県で多数の個体を捕獲しているため報告する。

岩手県滝沢村滝沢字榎ノ木沢 (39°46'N, 141°9'E), 2 exs., Apr. 24 – May 2, 2008; 19 exs., Apr. 21 – May 27, 2011; 66 exs., Apr. 18 – May 23, 2014. いずれも、エタノールを誘引源とする衝突板式トラップ (Flight Interception Trap) による捕獲。

採集地は、盛岡市郊外にひろがる低標高の里山林で、岩手大学附属滝沢演習林として管理されている。この里山林は、150 haにおよぶアカマツやコナラの二次林と、118 haのスギやアカマツ、カラマツなどの人工林から構成されている(岩手大学, 2007)。これらのさまざまな植生下に、2008年は6個、2011年は5個のトラップを設置して甲虫相調査を行った中で、本種の生息を確認した。2008年はコナラ林とアカマツ林でそれぞれ1個体ずつ捕獲し、2011年はシラカバ林で10個体と、前記とは別の2箇所のコナラ林で、それぞれ、7個体と2個体を捕獲した。2014年は追加捕獲をめざして、前記のシラカバ林に1個のトラップを設置したところ、一挙に66個体も捕獲された。なお、2011年には、市街地に近接する盛岡市下厨川と中山間に位置する雫石町御明神においても、それぞれ5個のトラップを用いて同様の調査を行ったが、本種の捕獲はなかった。

多数の個体が採れたシラカバ林は、胸高に達する密生したササ原にシラカバが疎生し

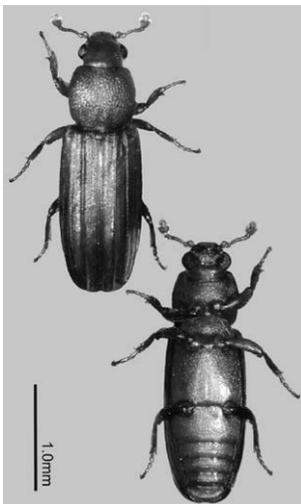


図1. イノウエホソカタムシ (上: 背面, 下: 腹面)。

ている状況であり、7個体採れたコナラ林では、他の場所とは異なり、林縁の明るい場所に設置したトラップで捕獲された。本種は、樹冠の閉鎖した林内よりも、解放的で明るい環境で捕獲され易いのかも知れない。また、トラップは1.3 mの高さに設置し、4月上・中旬から9月下旬あるいは12月上旬まで連続して調査を行ったが、いずれの年も、捕獲されたのは春の短期間に限られていた。本種が属するBothriderinae亜科の幼虫はキクイムシやシバンムシ等の穿孔性甲虫の幼虫や蛹に外部寄生者すると考えられており(Lawrence and Britton, 1994)、成虫もまた、その円筒形の体型から、坑道内での生活を送っていると推察される。本種の採集記録が少ないのは、成虫が坑道外で活動する期間が非常に限られているからなのかも知れない。

穿孔性甲虫やその捕食者は、衰弱木から揮散する匂いに誘引された後、最後は樹幹の色や形を頼りに定位するといわれている。トラップを用いて本種を採集した井上重紀氏は、誘引源としてナラ材のエタノール滲出液を用いている(青木, 2009)が、今回は、市販の95%エタノールで捕獲できた。また、2008年の捕獲は、井上氏が使用したのと同じサンケイ化学社製の黒色の昆虫誘引器によるものであったが、2011年と2014年は、乳白色の半透明クリアファイルとナイロン袋を加工して作ったトラップで捕獲した。このようなトラップでも多数の個体が捕獲できたことから、必ずしもナラ材の滲出液や黒色のトラップにこだわる必要はないと考えられる。

末筆ながら、調査を許諾いただいた岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターにお礼申し上げる。

## 引用文献

- 青木淳一, 2009. ホソカタムシの魅惑. 194 pp. 東海大学出版会, 秦野.  
 青木淳一, 2012. 日本産ホソカタムシ類図説. 93 pp. 六本脚, 東京.  
 岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター, 2007. 演習林概要. 13pp. 岩手大学, 盛岡. (<http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/~fsciu/ensyuringaiyou.pdf>)  
 Lawrence, J. F. and Britton, E. B., 1994. Australian beetles. 192 pp. Melbourne Univ. Press, Victoria.  
 Sasaji, H., 1997. A new species of the genus *Antibothrus* (Coleoptera, Bothrideridae) from Japan, with notes on the Japanese Bothriderinae. *Esakia*, (37): 111–116.

(磯野昌弘 020-0123 盛岡市下厨川字鍋屋敷 92-25 森林総合研究所東北支所)